

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.10



Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2012 Autumn-Winter



## 平成24年秋冬号

- 特別展「卑弥呼がいた時代」..... 2
- ◆来たれ!!古代体験フェスティバル「考古博 古代体験・秋まつり」..... 4
- ◆ミュージアムロードで歴史の旅にでかけよう!..... 5
- ◆企画展「調査研究速報展 ひょうごの遺跡Vol. 5」..... 6
- ◆学芸員が選ぶ、私のイチオシ館蔵品「壊された中国製の鏡」..... 6
- ◆竪穴住居復元プロジェクトただ今4棟目建設中..... 7

開館5周年・史跡大中遺跡発見50周年記念特別展

## 「卑弥呼がいた時代」

『魏志倭人伝』にみえる倭国の女王「卑弥呼」や「台与」は2世紀から3世紀に生きた女性です。

彼女たちが生きた時代は、弥生時代が終わり古墳時代が始まる日本の歴史の中でも大きな変革があった時代で、集落、墳墓、祭祀などに多くの変化がみられます。本展ではこの変革のなかで兵庫の人々が果たした役割を読み解きます。

## ◆銅鐸が壊された時代

分銅形土製品などの弥生時代の祭祀具の多くが、この時代を境に見られなくなります。倭人伝に記載のあるひび割れの形状で吉凶を占うト骨もその一つです。

祭祀具の最高位に位置する青銅器でも、弥生時代の後期に現在の九州や四国の一部で用いられていた巨大な広形銅矛は姿を消してしまいます。また、近畿や東海でその偉容を誇っていた近畿式銅鐸や三遠式銅鐸も作られなくなります。

別の製品に作り替えられるために破碎された姿で見つかる銅鐸片は、弥生時代のマツリの終焉を象徴するものです。



栄根（加茂遺跡）出土 近畿式銅鐸（画像提供 東京国立博物館）

## ◆戦乱の時代

卑弥呼が女王になる直前や、卑弥呼が亡くなる前、台与が女王になる前には、倭国で戦乱があったことが記されています。東大寺山古墳（奈良県天理市）の中平年銘鉄刀は、戦乱の時代を象徴するものです。

また、兵庫県の内場山や妙楽寺の墳丘墓から出土した長大な鉄刀は卑弥呼が魏から下賜された「五尺刀」をイメージさせるものです。

## ◆神獣鏡の時代

大陸からもたらされた青銅鏡は、その初期の段階では九州と近畿とでは扱いが異なりましたが、弥生時代後期になると九州でも破鏡や破碎鏡を墓に納めるようになり、近畿やその周辺でも小型鏡や破碎鏡が墓に納められるようになります。

景初3（239）年、魏の皇帝からつかわされたと言われる銅鏡百枚は、倭国における鏡の扱いを大きく変えたと考えられます。まさに卑弥呼の時代を示す年号を記した鏡が、兵庫県では但馬の森尾古墳や摂津の安倉高塚古墳からも出土しています。

それまでは幾何学的文様の鏡が多かったのに対して、具体的な文様をもつ画文帯神獣鏡や三角縁神獣鏡などが主体を占めるようになります。文様には西王母、東王父、黄帝、伯牙など伝説上の神像や神獣が表現されています。

神獣鏡を中心とする大量の鏡が墓に副葬されます。巨大な前方後円形の墳丘に、大規模な竪穴式石室を構築し、長大な木棺を納め、葺石や埴輪を並べる定型化された古墳が生まれます。この定型化された古墳には様々な地域で行われてきた墳墓の祭祀が組み込まれていることがわかります。



西求女塚古墳出土 画文帯神獣鏡（画像提供 神戸市教育委員会）



## ◆新たなマツリの時代

弥生時代後期には、器台や壺が大型化し、表面を華美に文様で飾るものが現れます。これは特殊器台・特殊壺と呼ばれ、埴輪の先祖と考えられており、その故郷は吉備地域とされています。特殊器台・特殊壺が三角縁神獣鏡といっしょに出土したのは、今のところ播磨地域だけです。

また、縄<sup>まきむく</sup>向遺跡の土坑から大量に出土したモモの種は西王母の伝説と結びついた不老不死の祭祀が伝わったことを物語るものでしょう。

## ◆卑弥呼がいた時代

倭人伝には、国々に市があり、盛んに交易がなされていたことが記されています。

奈良県の縄向遺跡では、箸墓(箸中山古墳)などのこの時代の墳墓や大型建物群などがみつかっています。ここから数多く出土する各地からの搬入土器は交易によるものだけではなく、移住によるものと考えられています。

姫路市南部の丁<sup>よう</sup>・瓢塚古墳は、箸墓と相似形で、周辺には丁・山頂古墳や、丁・柳ヶ瀬遺跡、川島遺跡など搬入土器を多く出土する集落が存在します。その様子は、箸墓と縄向遺跡の様子とよく似ており、その縮小版ともいえるでしょう。

このように「卑弥呼がいた時代」は、モノの価値観や社会が大きく変動した時代です。そしていよいよ古墳時代の幕が開きます。

(学芸課 別府洋二)



丁・瓢塚古墳

## 《会期中のイベント》

### 【館長特別講演会】

「卑弥呼・台与の時代  
兵庫五カ国の対外交渉―船団・鉄刀・銅鏡・墳墓―」  
講 師／石野博信(当館館長)  
日 時／11月10日(土) 13:30~15:00  
会 場／当館講堂 当日受付(12:30より整理券配布)  
定 員／120名  
参加費／無料

### 【講演会】

会 場／当館講堂  
時 間／13:30~15:00 当日受付(12:30より整理券配布)  
定 員／120名  
参加費／無料  
10月13日(土) 「「伊都国」を掘る」  
角 浩行(糸島市教育委員会)  
10月20日(土) 「「奴国」を掘る」  
常松幹雄(福岡市経済観光文化局)  
11月17日(土) 「「投馬国」を掘る」  
宇垣匡雅(岡山県教育委員会)  
11月24日(土) 「「狗奴国」を掘る」  
赤塚次郎  
(愛知県埋蔵文化財センター)  
12月 2日(日) 「「邪馬台国」を掘る」  
橋本輝彦(桜井市教育委員会)

### 【実演イベント】

「実演! 卑弥呼の五尺刀を打つ」  
刀匠河内國平氏が卑弥呼に下賜されたとされる大刀を復元的に鍛えます。  
日 時／10月28日(日) 14:00~19:00頃

### 【遺跡ウォーク】

「邪馬台国時代の播磨を歩く」  
日 時／11月25日(日)  
定 員／20名(要申込)  
参加費／100円(保険代)

### 【イベント】

考古博であそぼう「大中探検隊 卑弥呼がいた時代」  
日 時／10月7日(日)・8日(月)  
かみしばい「卑弥呼」  
日 時／期間中の毎土日曜 13:00~13:25  
第5回考古博古代体験・秋まつり  
日 時／11月3日(土)  
移動プラネタリウム「卑弥呼の見た星空」  
日 時／12月1日(土)  
(明石市立天文科学館と共催)

### 【展示解説】

日 時／期間中の毎日曜日、13:30~14:00





## 来たれ!! 古代体験フェスティバル

### 開館 5 周年記念 「考古博 古代体験・秋まつり」

#### ◆日本中の古代体験メニューがせいぞろい◆

11月3日(土)に古代体験プログラムの先進的な取り組みを行っている日本各地の博物館、資料館、埋蔵文化財センター等を招き、これに県内の諸施設、教育委員会や学校も加わり、古代体験をテーマにした「古代体験・秋まつり」を行います。

これは県内外の博物館等の施設と連携し、古代体験の情報交換や技術交流、ネットワークづくりをここ考古博物館でおこない、新たなプログラムを兵庫県からスタートさせようという試みです。

また、この日はより多くの県民の皆様に興味関心をもっていただけるよう、発見50年を迎えた史跡大中遺跡を舞台に、はれて町制50年を迎えた播磨町が行う「大中遺跡まつり」と共催で行います。

昨年は天候に恵まれなかったにもかかわらず、約1万7千人の参加者があり、関心と期待の大きさが確実に広がってきました。



#### ◆大昔の体験だけど、最新のことを学ぶ体験◆

「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知れば、以て師となるべし」(為政第二より)

「温故知新」という言葉を聞いたことがある方は多いと思います。「過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解をひらくこと」という意味ですが、言い換えると誰かに何かを教えることができるくらいにしっかりと研究し、習熟したならば、新しいことを知ることができ、師とすることができるということです。日本各地の考古学の研究成果をもとにした選りすぐりの古代体験だからこそ「新しく」学ぶべきことが多いと思います。当館のロゴにもそんな思いが込められています。

#### ◆素敵な体験がてんこもり!!◆

当館の前庭にあたる「体験広場」にテントブースを設営し、古代体験プログラムを披露したり、各施設での取り組みをパネルで紹介します。県外からの今回の参加予定の主な団体は次のとおりです。

秋田県埋蔵文化財センター(秋田県)  
御所野縄文公園博物館(岩手県)  
岩宿博物館(群馬県)  
千葉縣市原市埋蔵文化財調査センター(千葉県)  
静岡市立登呂博物館(静岡県)  
千曲市さらしなの里古代体験パーク(長野県)  
大阪府立近つ飛鳥博物館(大阪府)  
大阪府立弥生文化博物館(大阪府)  
和歌山県立紀伊風土記の丘(和歌山県)  
鳥取県立むぎばんだ史跡公園(鳥取県)  
石見銀山世界遺産センター(島根県)  
広島県立歴史博物館(広島県)  
和歌山県立紀伊風土記の丘(和歌山県)  
熊本県立装飾古墳館(熊本県)  
鹿児島県上野原縄文の森(鹿児島県)

#### ◆新たな古代体験はあなたの参加ではじまる◆

この「秋まつり」は、出展参加施設のスタッフ、ボランティアの方々にとっても貴重な情報収集の場となっています。より多くの方に参加していただき、ご意見・ご感想をいただくことでプログラムの内容を鍛錬し、より高いグレードへと昇華させることができます。



#### ◆やっぱり秋のこの日は考古博で決まり!!◆

「古代体験・秋まつり」は11月3日(土)に雨天決行です。文化の秋、時空を超えた人の叡智に遊んでみませんか。考古博で待っています!!

(学習支援課 浅野 晋司)



# ミュージアムロードで歴史の旅にでかけよう!

## ◆博物館につながる「であいのみち」◆

今年の3月にJ R土山駅から県立考古博物館へのアクセス道路である「であいのみち」がミュージアムロードとして新たに整備されました。

正式な名称は「歴史との“であい”ミュージアムロード」です。

もともと、この道は大正時代に開設した別府鉄道の軌道でした。昭和59年に廃止となったのち、大中遺跡までが緑道「であいのみち」として平成元年に生まれ変わりました。1日に約3,000人の往来があり、住宅が建ち並ぶ都市空間にあってオアシスのような機能を果たし、町のシンボルとなっています。

## ◆歴史との“であい”を演出◆

J R土山駅から史跡大中遺跡、兵庫県立考古博物館、播磨町郷土資料館へはこの「であいのみち」を歩くのが一般的ルートです。

この道は、人と自然、人と人、人と歴史が出会うことができるようにという願いが込められて命名されています。約120種類、2万5千本の花木が植えられ、四季折々の植物と出会うことができます。

今回は「人と歴史」が出会うことをコンセプトに整備を行いました。しぜんに歴史の流れを体感できるように土山駅側を現在、大中遺跡側を過去(弥生時代後期)に、2000年を1kmの歴史年表に仕立てました。歩きながら、時間旅行が楽しむことができます。

## ◆博物館から飛び出した展示・時間旅行を楽しむ◆

「駅を降りたら、そこは博物館」を目標に整備しました。展示物をたどれば、しぜんに博物館や古代のムラに到着するように展示物を配しています。

展示物には2種類のものがあります。



タイムトンネルゲート(古墳時代) ©YCP



道しるべ(関ヶ原の戦い)

ひとつはタイムトンネルをイメージした直径4mの円形のアーチ。各時代の区切りとなる場所に6基作りました。アーチの上面には、時代を象徴するレリーフ(近代ならジョセフ・ヒコや蒸気船、戦国時代なら信長・秀吉・家康)を配しています。

もうひとつは、歴史上の出来事を記した「道しるべ」です。年代順に35ヶ所設置しました。年号とイラストと説明で歩きながら歴史の勉強ができるという仕組みになっています。教科書に載っている日本の出来事だけでなく、東播磨地域や世界の歴史も取りあげているので、地元と日本と世界の歴史が対比できます。

アーチや道しるべの素材は、この道の由来を残しておくため、鉄道のレールを使いました。アーチに近づいて観察してみてください。鉄道の記憶が刻まれた刻印が施されています。

## ◆気が付けば、そこは弥生時代の大中遺跡◆

ミュージアムロードを歩いて15分、アーチや道しるべなどを見ながら2,000年の時間を遡れば、目の前には弥生時代の集落遺跡である大中遺跡が広がっています。緑豊かな遺跡公園で復元された竪穴住居を巡りながら古代人たちの息吹を感じとってください。

ミュージアムロードが地域に愛され、日々の生活のなかに歴史を感じ取っていただける施設となれば幸いです。ぜひご活用ください。

(学習支援課 高瀬一嘉)



## 調査研究速報展

## ひょうごの遺跡 VoL.5

平成25年1月26日(土)～4月7日(日)

当館が実施した発掘調査と出土品整理の最新の成果を御覧いただく企画展です。今回展示するのは平成23年度に刊行した25冊の報告書に収録された主な遺跡と、平成24年度に発掘調査されたばかりの最新の資料を展示します。その中から見どころを紹介いたします。

## ◆古墳時代中期初頭の古墳

——東沢1号墳(加古川市)

古墳時代中期初頭(5世紀中頃)の古墳で、円筒埴輪、家形埴輪、壺形埴輪、蓋形埴輪、小型土製品、韓式土器、瓦質土器など豊富な出土品は見ごたえがあります。

## ◆古墳時代後期の祭祀遺跡と平安時代の有力な開発拠点

——貴志・下所遺跡(三田市)

貴志・下所遺跡では古墳時代後期の祭祀遺跡と平安時代の集落跡が見つかっています。

古墳時代の祭祀遺跡からは土師器、須恵器のほか、白玉1890点、小玉1点など玉類が大量に出土しています。

平安時代の集落跡からは邢窯・定窯系の白磁、神

功開竇など都との関連を裏付ける遺物が出土しています。

## ◆中世の港町室津に関連する遺跡

——室津4丁目遺跡(たつの市)

古代からの港町とし栄えた室津からは、鎌倉～室町時代の備前焼、土師器皿、中国製陶磁器などがまわって出土し、瀬戸内海を通じた交易の様子がしのべられます。

(学芸課 岡田章一)



東沢1号墳から出土した須恵器

## 学芸員が選ぶ、私のイチオシ館蔵品

## 壊された中国製の鏡 ——朝来市向山2号墳——

赤く塗られた石室に眠る壮年女性(当館の通称名「ひとみ」)。顔も赤く塗られていた彼女の側には壊された青銅鏡が置かれていました。

鏡の背面には花卉を散らしたような幾何学的な文様が描かれており、内行花文鏡とよばれています。中国の後漢時代(紀元25～220年)に作られたもので、その系譜を引く鏡が朝鮮半島や日本からも見つかっています。

邪馬台国の卑弥呼が中国から大量の鏡をもらったのは有名ですが、それ以前にも多くの鏡が日本に持ち込まれました。この向山2号墳の鏡もその一つですが、お墓に入れられたのは西暦300年ごろです。

ところで、この鏡、埋葬時には割られてしまい、紐(ひも)を通す穴のある突起)以外、顔を写す表面を上に向けて、石室と木棺の隙間に並べられていました。

鏡はなぜ割られたのか? 1,700年前の鏡の謎は、今も当館の展示室に眠る彼女が、そっと教えてくれるかも…。

(埋蔵文化財課 中村 弘)





## 竪穴住居復元プロジェクトただ今4棟目建設中

### ◆竪穴住居復元プロジェクトとは◆

博物館が開館して2年目の平成20年から、「竪穴住居復元プロジェクト」が始まり、これまでに3棟を完成させ、現在4棟目にとりかかっています。

博物館の隣にある史跡「大中遺跡」には、史跡整備の一環として復元された5棟の竪穴住居がありますが、これらは本職の大工さんが建てたものです。それに対して、当プロジェクトは、自分たちで当時の住居作りの過程を追体験しながら、復元作業を行うという試みなのです。

### ◆さまざまな立場からの参加◆

建物の骨組みとなる柱材や、屋根を葺く土台となる垂木や小舞といった木材の調達には、里山林保全活動に取り組む「ひょうご森の倶楽部」、屋根材となるヨシ集めにはため池環境保全活動を行っている「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」の協力を得ています。そして、当館と「ひょうご考古倶楽部」、地域や自然と関わりながら、史跡整備の実践にとりくむ「国立明石工業高等専門学校」が中心となって、活動を続けています。世代も様々です。

### ◆実験考古学を楽しむ◆

発掘調査でわかる弥生時代の住居は、掘りくぼめられた「竪穴」の大きさや柱を埋めた跡といった「下部構造」が中心です。当時地上にあった家本体の「上屋構造」については、わからないことだらけで、建ててみて初めてわかることもあります。

何年も竪穴住居の復元するうちに、木材や屋根材を調達する時期や住居の竪穴を掘る作業などは、どの季節に行うのが合理的か、弥生時代の暦の中で家作りを考えるのに、さまざまなヒントが得られます。



### ◆交流を楽しむ◆

プロジェクトは月2回ペースで週末に作業しています。大中遺跡公園内の散策路沿いで作業をしますので、通りがかりやわざわざ足を運ばれて、声をかけてくれる人もいます。

家の骨組みを組み立てるのに、釘は使わず、シュロ縄で縛って固定しますが、木や縄を切るのに、現代文明の利器であるのこぎりやカッター、ハサミなどを活用しています。

「こんな道具がなかったら大変でしょうねえ」「いったい昔はどのくらいの時間と人手がかかったんでしょう」などに見学される方々との会話からも、得られるものは多いと感じます。

春に柱を立て、夏に骨組みが完成し、夏の終わりから秋にかけては延々と屋根の茅葺き作業が続きます。これからも、プロジェクトの応援お願いいたします。

(企画広報課 菱田淳子)





# イベント・スケジュール

展覧会	月	講演会	解説・ツアー	イベント	体験講座
<b>開館5周年・史跡大中遺跡発見50周年記念 特別展「卑弥呼がいた時代」</b>	10月	10月6日(土)～12月2日(日)	7日(日) 特別展 展示解説 13日(土) バックヤード見学ツアー 14日(日) 特別展 展示解説 21日(日) 特別展 展示解説 28日(日) 特別展 展示解説	7日(日) 考古博であそぼう 8日(月) 大中探検隊「卑弥呼がいた時代」 9日(日) おおむかしかみしばい	20日(土) 赤米をつくろう(稲刈り) 21日(日) どんぐりであそぼう! 28日(日) 強力パワー! 子持ちまが玉づくり
		10日(土) 館長特別講演会「卑弥呼、台与の時代 兵庫五カ国の対外交渉—船団・鉄刀・銅鏡・墳墓」石野博信(当館館長)	4日(日) 特別展 展示解説 10日(土) バックヤード見学ツアー 11日(日) 特別展 展示解説	3日(土) 第5回 考古博古代体験・秋まつり 11日(日) おおむかしかみしばい	17日(土) 古代のかごづくり
		17日(土) 特別展講演会「“投馬国”を掘る」宇垣匡雅(岡山県教育委員会)	18日(日) 特別展 展示解説		
		24日(土) 特別展講演会「“狗奴国”を掘る」赤塚次郎(愛知県埋蔵文化財調査センター)	25日(日) 遺跡ウォーク—邪馬台国時代の播磨を歩く— 特別展 展示解説	28日(日) 実演! 卑弥呼の五尺刀を打つ	
		12月	2日(日) 特別展講演会「“邪馬台国”を掘る」橋本輝彦(桜井市教育委員会) 8日(土) バックヤード見学ツアー	1日(土) 卑弥呼のみた星空 9日(日) おおむかしかみしばい	1日(土) “ループ組紐教室 5本のループに挑戦!” 8日(土) 和同開珎をつくろう
		12月10日(月)～12月14日(金) メンテナンス休館			
		15日(土) 兵庫考古学研究最前線4「三田市域の近世丹波焼」村上泰樹(企画広報課長)			23日(日) 古代米のワラでしめ縄づくり
	1月	12日(土) 兵庫考古学研究最前線5「神功皇后伝承と争乱—玄界灘・瀬戸内海・淀川・琵琶湖・日本海—」 石野博信(館長) 兵庫考古学研究最前線6「タイル考古学の世界—淡路・坂平・瀬戸の調査成果から—」 深井明比古((公財)兵庫県まちづくり技術センター次長)	12日(土) バックヤード見学ツアー	3日(木) 新春もちつき 考古博カルタ大会 とんど焼き —小正月の火祭り— 12日(土) おおむかしかみしばい 13日(日)	2日(水) お正月だよ! コマをつくろう!
		2月	9日(土) 兵庫考古学研究最前線7「やきもの“の”出土品と伝世品」仁尾一人((公財)兵庫県まちづくり技術センター副課長) 23日(土) 兵庫考古学研究最前線8「邪馬台国時代の集落—長越遺跡の調査から—」渡辺 昇((公財)兵庫県まちづくり技術センター副課長)	10日(日) おおむかしかみしばい	2日(土) 連続講座! 特殊壺づくり① 3日(日) 一節分—鬼瓦のお面で鬼退治 9日(土) 連続講座! 特殊壺づくり②
<b>企画展「ひょうごの遺跡 vol.5 —調査研究速報—」</b>	3月	9日(土) 兵庫考古学研究最前線9「古墳時代の玉と祭祀—貴志・下所遺跡」池田征弘(学芸員) 23日(土) 平成24年度発掘調査速報会((公財)兵庫県まちづくり技術センター職員)	9日(土) バックヤード見学ツアー	10日(日) おおむかしかみしばい 16日(土) 考古博であそぼう 17日(日) 「古代のワザにチャレンジ」	3日(土) 一ひな祭り—はにわのおひな様を作ろう

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00～15:00

■休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日) ※12月10日(月)～12月14日(金)、12月29日(土)～1月1日(火)は休館。

## 兵庫県立考古博物館NEWS vol.10 2012 Autumn-Winter

発行年月日 平成24年8月31日

編集・発行 兵庫県立考古博物館  
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1  
TEL.079-437-5589  
FAX.079-437-5599  
http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分  
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。  
**兵庫県立考古博物館**

